

2017年

ホームページへGo!→
スマホで教室便りが見られます



教室だより9月号

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL61-8891(福島方)

指導者:新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

二百十日

立春の日から数えて210日目の「二百十日」、220日目の「二百二十日」は台風の厄日といわれています。この時期は、米の生産においてもその収穫時期にあたり、台風が稲刈りの前に来るか後に来るかでその1年の努力が無駄になってしまうかもしれないわけですから、農家の方々には気が気ではなかったでしょう。また、漁をする人たちにとっても海上で嵐に遭遇すれば生死に関わるのですから、台風の来る日を事前に知ることがたいへん重要でした。

こうして「嵐の来る日」として暦に載るようになったのが「二百十日」です。今年は9月1日が二百十日にあたります。

実際には台風の発生数、日本への上陸数が最も多いのは8月ですが、9月に日本へ来襲する台風は、8月に比べると勢力が強く、台風による被害が大きいことが多いため、台風シーズンは9月というイメージが定着しているようです。

最近では、台風情報の精度もずいぶん高くなっていますが、普段から災害に備えて、室内や防災用品の点検を定期的にしておくことで、あわてずにすむようにしておきたいですね

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“個人別の「能力に応じたちょうどの教育」が本流にならなければなりません”

子どもの能力は、それまでの環境、素養、練習量などによって一人ひとり違います。年齢が同じというだけで学習内容を統一すれば、ある子には難しすぎて自信を失ったり、別の子にとっては簡単すぎて退屈だということがおこります。個人差や能力差を無視した従来の方法では、子どもの持っている可能性を精一杯伸ばすことはできません。一人ひとりの子どもの能力に応じた学習である公文式だからこそ、その子どもの能力を可能な限り伸ばし、優秀な人材を育成することができるのです。

それを可能にしているのが、公文式教材です。乳幼児からでも楽しく学習できるレベルから高等学校で学習する高度な内容までキメ細かくスモールステップで構成されています。ぜひ、公文式の「教材内容一覧表」をご覧ください、お子さまがどの段階を学習なさっているか、どこをめざしているのかをご確認いただき、励ましてあげてください

2017年 9月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

本市場教室日□

横割教室日△



保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

9月分の会費引き落としは8月28日(月)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

KUMON

様

*ゆき子の一言コラム

~KUMONのつどい2017 未来へ君の努力でつかむ夢~

8月9日(水) ロゼシアターで、「KUMONのつどい2017 in富士」が実施されました。同市西部地区にある17教室が合同で実施。3学年以上先の学習プログラムに取り組む児童生徒への表彰や、公文OGで最終教材修了者の影島沙絵さんを講師にした教育講演会などを繰り広げ、児童生徒の日頃の努力をたたえるとともに一層の学習意欲の向上を図りました。教育講演では、影島さんが公文で身に付けた力や、夢や目標に向かって挑戦することの大切さについて伝えました。影島さんは、県立富士高等学校理数科から現役で東京大理科1種に合格、現在は大手化粧品会社で商品開発に携わっています。公文には小学校2年時に入会し、中学3年で国語、高校1年で数学、同3年で英語の最終教材を修了しました。公文での学習について「やっただけの成果が見えて楽しかった。学年よりも先の学習内容を学

んでいたため、学校の授業が復習のようになり、あやふやだった部分が分かっていくという面白さがあった」と説明。「問題が難しくなってくると解けなくていらいらしてしまうこともあった。それでも続けてこられたのは、励ましてくれた先生と最終教材までやり遂げたいという自分のやる気があったから」と振り返りました。さらに「公文では学習内容はもちろん、高い忍耐力や集中力、何かのめり込むこと、『今までの自分に勝ちたい』といった気持ちの強さも身に付いた」と強調。「今の自分があるのは公文のおかげ。社会に出てからも公文で身に付けた力はとても大切になる」と学習を継続することの意義を伝えました。

代表生徒発表として、石川莉帆さん(小1)による英文の朗読、池谷紘さん(中3)によるスピーチなどが盛り込まれました。公文教育研究会沼津事務局の古谷局長は「公文式には自分だけでなく多くの仲間がいることを感じてもらい、自分の夢や目標に向かって気持ちを新たに頑張ってもらいたい」と呼び掛けました。

公文式がつけてくれる力

公文式は子どもたちにどんな力をつけてくれるのでしょうか。

算数・数学力、国語力そして英語力という教科力がつくのは、言うまでもないことです。実は、公文式はこれらの教科力のほかに大事な3つの力をつけてくれるのです。

そのひとつは反復練習力です。未知の問題に接したとき、その問題が解けるようになるまで繰り返して練習する力、いわば、ねばる力をつけてくれます。

次のひとつは、特に国語や英語で身につくものなのですが、未知の言葉に出会ったとき、その言葉の意味を想像する力がつくのです。この力は本や文章を、速く深く読めることにつながります。

そして、最後のひとつは、自習する力です。

未知の問題に直面したとき、先ほどの反復練習力と言葉の意味を想像する力と相まって、この自習力が抜群の効果を発揮して、考える力、考えぬく力をうみ出してくれるのです。

公文式が「能力開発塾」と呼ばれたり、公文式を長く続けた子が結果として「入試や英検に強い」と言われる訳はそこにあるのです。

~直しが多かったときに、その辛さをわかってあげることこそ、いちばんの応援~

公文式の学習は、その子その子の「ちょうど」にあわせて教材が用意されますから、いきなり難しくなることはありません。とはいえ、単元の最後のほうでは、いろんなパターンの問題がミックスして出てきたり、少し意地悪な問題や、根気を要する問題が出てきます。

公文式は、その日の教材を全部100点に仕上げないと教室から帰れませんので、時には直しが多くて、なかなか終わらない日もあるでしょう。

送り迎えで、教室の外で待っていて、なかなかお子さまが出てこない、イライラされることがあるかもしれませんが、やっと教室から出てきて、車のドアを開けた瞬間、「こんなに遅くまで、何やってたの?」と、思わず叱り口調でお子さまに声をかけていることがないでしょうか。

学習はすらすらできるときばかりではなく、間違いながら、それを直すことによって力をつけていく段階があります。どこが間違っていたのか、自分で見つけて自分で直すことで、注意力と粘り強さを身につけていくのです。間違いから学ぶことは、進歩・向上の鍵であり、最後までやりとげる姿勢は、その後の学業生活、社会生活にも大きく役立ちます。

お子さまがなかなか出てこない日は、まず「どうだった?」と聞いてあげましょう。聞いてもらえば、子どもはその日の学習の大変さを説明できます。何度も消してやり直した、少ししわくちゃになったプリントは、がんばったお子さまの証しなのです。直しが多かったときに、その辛さをわかってあげることこそ、「がんばる力」を強くしていくための、いちばんの応援になると思います